

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第84号(2014. 3. 1)
事務局川西地区自主防災会

防災まちづくり大賞「3冠」を達成して

丸亀市川西地区自主防災会
岩崎正朔

このたび第18回防災まちづくり大賞(主催:消防庁)において、「選定委員特別賞」を受賞(受賞事例名:「地域と地元企業とのWin・Win関係構築による防災力の向上」)しました。これにより第11回の消防科学総合センター理事長賞(銅メダル相当)及び第14回の総務大臣賞(金メダル相当)と併せ、3度目の「防災まちづくり大賞」受賞となりました。このことは、この賞が創設されて以来、初めてであります。



この世界では、総務大臣賞受賞団体は、再応募の道は無いと言われておりました。更には、審査動向から、アイデア短期勝負が強くなっているようなイメージがあり、私達の自主防災会の活動原点から乖離しているようでもありました。アイデアも大切、しかし長期にわたって頑張っている団体もしっかりと見てほしいという願望を我々はもっていました。



このような状況下であえてチャレンジして行こうと、平成24年度、平成25年度と応募。私の個人的な気持ちとしては、第11回が銅メダル、第14回が金メダルだったので、もし受賞が叶えれば、銀メダル相当の消防庁長官賞をいただき、「金、銀、銅」での3冠をと夢みていました。

結果は、特別賞というルール上にはない特別な賞を国が新たに作ってくれての受賞となり、あらためて関係者の皆さんにお礼と感謝を申し上げる次第です。

なお、今回の受賞における川西地区自主防災会の取組に対する評価は、他の受賞団体に負けず劣らず高いものであったと、表彰式後の交流会の席にて、3人の選定委員の先生からお褒めいただいているところです。



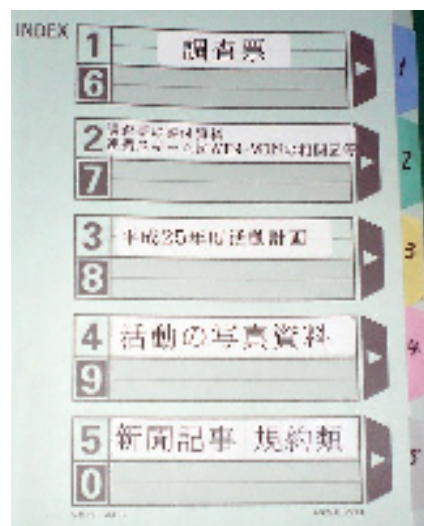
さて、ここで県内多くの自主防災会や学校関係者の皆さんに、この防災まちづくり大賞に応募していただくにあたって、どのような観点に気をつければよいのか等について、記述してみます。

- ①まず応募テーマに「キラリ」と輝く **key** ワードが大切
例えば「地域と企業が連携して防災力の向上をはかる」



「地域と地元企業との **win・win** 関係構築による
防災力の向上」

- ②応募資料のまとめ方については、「現状」をしっかりと分析。その現状から改善、改良についてより具体的に定量的に説明を行なう。
- ③改善活動の継続的な取組みについて説明を行なう
- ④まとめ方として、「PDCA」サイクルを回しているイメージとして整理する
- ⑤以上の取組み状況をセクションごとに写真を添付してその写真に簡単な説明を付記しておく
- ⑥過去の大賞受賞団体の資料（冊子）を何回も目を通して資料のまとめ方を学ぶことも大切な要素となります。
- ⑦応募資料として、総務省消防庁による「調査票」とこれにかかる添付資料（図形など含む）としてA4 20~30枚位にまとめる。この出来あがった資料、多くの関係者に目を通してもらって、**バランス感のとれた資料に仕上げる**ことが最後の大切なポイントになります。



いずれにせよ、自分達が行なっている活動が全国的にどのレベルなのか、又活動内容を整理して、次のレベルアップにもつながることになりますので、是非多くの自主防災会、学校関係者にチャレンジしてほしいと思います。

なお、応募のあかつきには、経験からのアドバイスができるかと思しますので、遠慮なく連絡ください。(090-3186-5043 岩崎)

